

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2006-517949
起案日	平成22年 1月29日
特許庁審査官	鈴木 秀幹 8810 2R00
特許出願人代理人	矢口 太郎(外 2名) 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から3か月以内に意見書を提出してください。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の特許出願に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。
2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において頒布された下記の特許出願に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。
3. この出願は、特許請求の範囲及び発明の詳細な説明の記載が下記の点で、特許法第36条第4項第1号及び第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

理由1、2について

請求項1に対して

刊行物A、特開平9-287337号公報

上記刊行物Aの段落【0078】には、

「前記実施例ではフォームホイール33を介して駆動カム34を回動させたが、直接出力軸にて駆動カム34を回動させるようにしてもよい。」

と記載されているから、上記刊行物Aに記載のものは、「直流モータ31」（本件出願の「モータドライブ」に相当）が、「駆動カム34」（本件出願の「操作レバー」に相当）のみを介して直接に「ラチェット20」（本件出願の「ロッ

ク機構」に相当)及び「ラッチカム10」(本件出願の「ロック機構」に相当)に作用しているものと認められる。

理由3について

特許請求の範囲の記載及び明細書全体を通じて、本件出願の発明の構成が不明瞭である。

例えば、

(1) 特許請求の範囲及び明細書の記載において、同一の符号で異なる技術要素を示しているため、本件出願の発明の構成が不明瞭になっている。

(2) 請求項1には、

「モータードライブ(4、5、6、7)が前記ロック機構(1、2)に前記操作レバー(3)のみを介して直接に作用する」

と記載されているが、他の請求項の記載及び明細書の発明の詳細な説明及び図面の記載からみて、モータードライブが直接操作レバーに作用している構成は存在せず(実際には、モータードライブはカムを介して操作レバーに作用していると認められる)、請求項1の記載は、明細書及び図面に基づくものと認めることができない。

(3) 請求項1には、「少なくとも1つの操作レバー(3)」と記載されているが、かりに、操作レバーが複数存在する場合において、

「モータードライブ(4、5、6、7)が前記ロック機構(1、2)に前記操作レバー(3)のみを介して直接に作用する」

という状態が、どのような事項を示しているのかが明確でない。

(4) 請求項5の

「請求項1～4のいずれか1つの自動車ドアラッチにおいて、追加開錠アーム(3c)というもう3つのアームを含む操作レバー(3)を特徴とする。」

の記載の意味が不明である。「追加開錠アームを3つ有する操作レバー」は、明細書又は図面には記載されていない。

(5) 全体に、「モータードライブ」が、電気モーター本体以外の構成要素を含んでよいのかどうか、また、含んでよい場合に、どのような構成要素が含まれているのかははっきりしない。

例えば、「モータードライブ」が、歯車伝達機構を含み得るものであれば、たいていの電気モーターを含んだ自動車ドアラッチは、請求項1に係る発明と同一、となってしまうのではないかと。

よって、請求項1～10に係る発明は明確でない。

また、よって、この出願の発明の詳細な説明は、当業者が請求項1～10に係る発明を実施することができる程度に明確かつ十分に記載されたものでない。

なお、この出願は、出願内容が著しく不明瞭であるから、請求項2～10に係

特許審査第一部 住環境（住宅設備） 鈴木 秀幹
TEL. 03 (3581) 1101 内線3283
FAX. 03 (3580) 6902